



MDP

Sagantosu

MATCHDAY PROGRAM

5.22 (水)

MF 18

日野 翔太

Shota HINO



19:00 KICK OFF
vs FC東京

©FC TOKYO

決断を証明するために。

は自分と向き合い、

強くなる

日野翔太のサッカー人生において大きな決断だった。昨年、練習参加を経て、サガン鳥栖からのオファーをつかみ取った。大学に籍を置いたまま、Jリーグでプレーできる特別指定選手として公式戦を経験したが、正式な加入は25年シーズンからだった。しかし、公式戦で体感したプロの“空気”に日野の向上心は掻き立てられた。「自分の目指しているところにより近づくためには大学よりもプロのほうがいい。プロとして早くプレーしたい」。籍を置く拓殖大学の理解と後押しもあり、日野は“前倒し”で今季から正式に鳥栖の一員としてプレーすることになった。

大学生からプロへ。肩書が変わったことで日野の姿勢にも変化が生まれた。「責任をもってプレーしないといけないし、毎日を大事に過ごしていかないとけない」。読谷村キャンプではときには荒々しく声を出して周囲を鼓舞する姿やミスから激しくその悔しさを露わにするなど昨季にはなかったような姿も見せた。「去年は試合に絡めましたけど、今年は結果にこだわっていききたい」、そう開幕前に抱負を語っていたが実際には思うように試合に絡めない日々が続いた。そんな中でルヴァンカップ1stラウンド2回戦・熊本戦でようやく今季初先発のチャンスをつかむ。しかし、精彩を欠くと59分に交代。「自分に力が足りないことを痛感した試合でした」、自分自身に失望を感じずにはいられなかった。

それでも、日野は下を向かなかった。池田圭スポーツダイレクターからの「試合に出られないとき、試合当日のメンバー外練習でどう取り組むかが大事」という言葉を受け、リスタートを切った。それ以来、思うように出場機会をつかめているわけでもない。しかし、第14節川崎F戦、途中出場でピッチに立つと鬼気迫る表情で守備に奔走する日野の姿があった。守備での連続性を課題に挙げていた日野が見せたプレーには変わらうとする意欲が表れていた。自らの決断を正しかったと振り返るために、日野はここからは上がっていく。